

資料目次

- 「輝け命の行進」総括、ニュース
- 生活支援・まちづくり運動について
- 後期高齢者怒りの決起集会「中之島宣言」
- 怒りの年金者一揆2013宣言
- 役員名簿（1989～2013年度）
- 2.5%年金削減異議あり!

—行政不服審査請求運動の中間総括

資料

「かがやけ命の行進」大阪実行委員会の総括

2012年8月23日

全日本年金者組合大阪府本部
かがやけ命の行進大阪実行委員会



スタート集会（大阪城公園野外音楽堂2012.5.30）

「手を合わすごとく黙礼する人の生きし道のり思いはせけり」

総括の概要

1. 「命かがやく社会を願う年金者組合の行進」（略称・かがやけ命の行進）の企画は2011年12月の年金者組合近畿ブロック会議終了後の各県交流の場で誕生しました。蹂躪される人間の尊厳、国民いじめの悪政に怒り、抗議する、そして、力を合わせて人間らしく安心して暮らせる社会を実現しようと、直接行動で広く世間に訴えようとの思

いからです。

また、キャッチフレーズは「少年に夢を 青年に雇用を 障がい者に光を 高齢者に安心を」とし、高齢者だけの課題ではなく若い世代、苦難を強いられているすべての人々と連帯する運動と位置付けています（「かがやけ命の行進」よびかけ）。

近畿ブロックが提起したこの「行進」は、2011年初頭以降全世界で沸き起こった「1%による理不尽な抑圧、搾取、支配を許すな！99%は力を合わせて人間らしい社会を！」のグローバルな運動と事実上、同一線上にある画期的な取り組みだったということができるのではないのでしょうか。さらに、沿道の市民に宣伝カーで訴え、幟を立てて東海道を行進し自治体、国に要請もするという運動は、現在、首相官邸前で毎週開催されている「原発なくせ！」

「貧困なくせ！」の直接行動と軌を一にするものと言えます。

2012年2月16日の近畿ブロック会議で検討され合意された「かがやけ命の行進」の取り組み概要は、3月22、23日開催の年金者組合中央執行委員会でも積極的な提起として承認、全国に呼びかけられました。

「行進」実施時期については、企画当初、今秋の全国年金者一揆にあわせ10月実施の案もありましたが、「年金切り下げ、消費税増税」をめぐる国会情勢から5月30日大阪城公園野外音楽堂スタート、6月20日日比谷公園野外音楽堂到着、国会要請行動と決まりました。「行進」規模の大きさから、計画から実施までの準備期間の短さは否めず、取り組みに多くの不十分さがありましたが、全体として「行進」沿道の市民、要請し

た自治体の多くから、「年金下げるな」「消費税増税するな」の訴え、共同の呼びかけに共感、賛同、歓迎をいただくことができました。また中央本部、近畿ブロック、沿道の都府県本部のみならず、全国の年金者組合、組合員の賛同、ご協力を得て、年金者組合全体の運動を励まし、春の組織拡大運動にも寄与することができたと思います。6月19、20日開催の中央委員会で同趣旨の発言もいただきました。

愛知県本部茶谷副委員長は「『少年に夢を、青年に雇用を、障がい者に光を、高齢者に安心を』と訴える宣伝カーの声を背に『年金下げるな！消費税増税するな！』と大きく書かれたオレンジカラーの鮮やかなTシャツの隊列は、沿道の住民から熱烈な声援を受けました。年金者自らが立ち上がったからこそ、暑い中だからこそ、私たちの熱意が伝

「わったと思います」とメッセージされ、また行進団の訪問を歓迎していただいた地方の自治体などの対応などからも「年金者組合のこの行動こそを地方自治体や人々は待っていた」と発言されています。

神奈川県本部からは「国民の意思を無視して、年金引き下げ、消費税増税が強行されているとき、時宜を得た取り組みであった。近畿ブロックの決断に敬意を表したい」との意見を頂いています。東京都本部の組合員の方からは、「たまたま手に入れた大阪の行進ニュースを読んだ。なんと画期的な取り組みか、ニュースから沿道の庶民の共感と熱烈な支持の思いが伝わり涙が出るほど感激した」との電話を頂き、「行進」終了後「行進は終わったが、これからの活動にエネルギーを与えることになりました。年金者組合の活動に歴史をつくったと思います」とのお便りもいただきました。

2. 「かがやけ命の行進」全過程は、近畿ブロック会議（2012年2月16日）で確認された目的・意義（1. 悪政に対する年金者組合としての異議申し立て、抗議の行動）

2. 悪政を力を合わせて変えましようという年金者組合としてのメッセージの発信

3. 高齢者の諸要求実現の主体としての年金者組合をアピールし、20万組合員、「組織強化、拡大」への貢献）にそって取り組まれ、その課題の多くを実行することができました。

決められた期間内の行動であるため、また各県との綿密な打ち合わせが難しいこともあって、歩いての「行進」距離に日によって大きなばらつきがありました。特に自治体への要請行動は重要な取り組みでしたが、時間的制約の中で多くの自治体を訪問するという点では不十分な部分もあったと思います。

「行進」に遭遇した沿道の市民にはかなりのインパクトを与えることができたと思います。広く国民に訴えるという点では、マスコミの報道が大きな影響力を発揮しますが、報道したのは赤旗新聞、伊勢新聞、京都市報、中日新聞、新かながわ、機関紙協会・宣伝研究などにとどまりました。全国紙、テレビ局などでも取り上げさせるための取り組みが今後の課題の一つだと思います。規模、形態は異なっても、インパクトのある社会的アピールを今後も継続的に実施していくことが大切だと考



若者とのコラボで盛り上がったスタート集会&音楽祭

えます。

2. 力を合わせて変えましようという年金者組合のメッセージの発信は、上記「1.」の行動の中で、限定的ではありますが効果が現れることができたと思います。

永井守彦行進団長の「手を合わせ、ごとき黙礼、する人の生きし道のり、思いはせけり」「できるなら、共に歩く（行進）と、商店主、みんなの願いぞ、天までとどけ」をはじめ、行進に参加された組合員からの報告（行進FAX通信）は、沿道の人々の声援、共感の反応を生き生きと伝えていきました。沿道各県の自治体要請行動、特に三重県亀山市、鈴鹿市、朝日町、桑名市、愛知県弥富市などの、年金切り下げなどの社会保障切り捨て、消費税増税による深刻な影響をうける地方の自治体当局からの行進団に対する共感、歓迎の応対に、「行進」に取り組んで良かった、との確信を得ました。

同時に、この自治体要請訪問の経験は、「悪政に苦しんでいる人々、地方の自治体は年金者組合のこのような行動こそを待っていた」ということ、全国の地道な「草の根」からの運動こそが「人間らしく暮らせる社会に力を合わせて変えていこう」という年金者組合活動の基本の重要な一つだということをあらためて示していると思います。

「力を合わせて変えよう」との取り組みで、他団体への協力要請、共同の行動という部分では準備不足、力量不足から不十分であったといわな



報告集会で紹介される行進団
(日比谷野外音楽堂2012.6.20)

ければなりません。「年金下げるな、消費増税するな」の要求で、世代間分断攻撃を克服し、年金者組合外の団体、個人を含む幅広い共同行動を追求し、積極的な協力関係を實現する点で課題が残りました。大阪城公園野外音楽堂のスタート集会では、若い世代との協力、共同の象徴として、若々しいダンスパフォーマンス、S.A.M.Oに出演していただき、スタート集会参加者に元気を与えてくれたことは積極的に評価できると思います。今後の運動の広がり、発展をめざすなかで、具体的な手立てを含めて十分検討し、協力、共

同行動を広げていくことが求められます。

「3. 年金者組合の組織強化、拡大への貢献」は、まず「行進」が時宜を得たインパクトある画期的な運動としての発言や大阪実行委員会に伝えていただいた全国からの声からも、年金者組合組織、組合員の皆様に年金者組合運動への確信と元気を与え、励ますことができたものと思えます。東京都本部江戸川支部の方から「行進の活動が、知る人に与えた感動は大きなものと思います。行進が始まり、ドラマ、エピソードあり、各本部、支部の活動にはずみを与えましたね」、また千葉県本部松戸支部の方は「東京の行進終結集会に参加して大きな元気をもらいました」などの感想も寄せていただいています。

自治体への要請行動は、自

治体当局に「年金者組合ここにあり」との存在感を示し、自治体とのつながりがありながらも、なかつた支部にとつて貴重な経験となり、「まちづくり」をはじめ運動の広がりのきっかけとなったことでしょう。

6月中央委員会で福岡県委員長は「春の拡大月間を迎えるにあたっての中央本部委員長アピールとともに、『かがやけ命の行進』の持つ意味をつかんでほしい」と発言され、今私たちの直面する情勢なのか、何をなすべきか、飛躍的な運動の発展、それを支える組織強化、拡大の大切さを強調されました。組織拡大運動においても、「行進」運動に波及されて活動に弾みがつき、拡大運動に貢献したのではないのでしょうか。

ただし、この「行進」の全体像、積極的なイメージを具体的に、各県本部、全国の支部、組合員はもとより、近畿

ブロック、大阪府本部各支部においても、「知らせる」という最も重要なところで、極めて不十分であったと思います。

年金者組合の組織・実力・実態から準備期間が少なかったことは明らかですが、「東海道53次」を行進するという、連絡、確認という実務を含めて、大規模で複雑な多くの課題をこなさなければならぬ内容からして、行動決定各レベルのスタッフ間の連携、意思疎通に不十分さがあつたと思います。それぞれの課題は、時間に追われて十分集団討議できず、即決、実行を余儀なくされました。

大阪府本部においても、「行進」はもとよりスタート集会の具体的な内容のお知らせも遅くなりました。しかしそのような事情のなかで、スタート集会に約1200人余りの参加者を得たことは、そ

の後の「行進」を成功させる大きな力になりました。近畿ブロック各県本部、支部の役員、組合員の皆様に感謝します。

大阪府本部実行委員会では、「行進」開始から終了まで行進団からの「行進FAX通信」を活用して、1号から19、2号まで「輝け命の行進」ニュースを発行し、府下全支部、全国各県本部に伝えました。このニュースはほぼ連日発行され、読んでいただいた多くの人々から好評をいただきました。

技術上、体制上の不備からすべての各県本部に送付できなかった点は残念でした。したがって、全国レベルでみると、このニュースを讀んでいただいた支部役員、組合員はかなりの限られた数であつたと思われまふ。中央本部との連携がこの点で不足していたことが大きな反省点です。

「できるなら

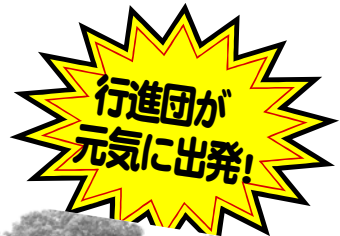
共に歩くと商店主

みんなの願いぞ天まで届け」

大阪(5/30)から東京(6/20)へ 「輝け命の行進」ニュース

2012. 5. 30 行進1日目
No.1
全日本年金者組合近畿ブロック
「輝け命の行進」大阪実行委員会
大阪年金都給内 TEL 06-6354-7207

年金下げるな! 消費税上げるな!



高齢者の底力見せつける! 1200人の仲間が激励に集結

「命の行進」スタート

5月30日、「命の行進スタート集会」会場の大阪城野外音楽堂には、開会前からオレンジ色のTシャツを着た組合員や他団体の仲間1200人が続々と詰めかけました。

「年金下げるな、消費税上げるな」「暮らし・商売を直撃する税と社会保障の一体改革反対」を掲げて全日本年金者組合が初めて取り組む「輝け命の行進」。近畿ブロック女性部の「シワ波五人女」のエールやサックス演奏、若者のダンスパフォーマンスなどで、大阪から東京へ向けて出発する行進団を大きく激励しました。

「素晴らしいことをしていますね。私も年金者組合に入りたい」と加入

スタート集会後、大阪城公園の中は参加者が大きな隊列で歩き、通し行進団と守口まで歩く仲間を見送りました。枚方を通行中、家の前を行進が通るのを見て、「素晴らしいことをしていますね。もっと宣伝して、みんなに知ってもらわなければ」「いっしょにがんばりたい」とその場で加入されました。永井団長は、「この日、一番うれしい報告です」とFAX通信を入れてくれました。

かがやいて生きよう

2012年5月30日
出発の朝 永井守彦

3000万人の高齢者へ
かがやいていますか あなた
今日スタート「輝け命の行進」
大阪城野外音楽堂
全日本年金者組合の全国が目を注ぐ
近畿ブロックのかがやき

生活保護 その43%は高齢者ではないか
さらに引き下げるとアホぬかせ
立ち上がろう
年金者組合とともに

としより金持ちと「逃げ切り族」などという罵詈雑言
いたずらに世代間格差をあおり分断を策す 富者のおごり
高齢者の尊厳をかけて立ち上がろう
3000万人のパワー

たとえ亡者となっても三途の川を渡らずにとどまれ
怨霊となって為政者 富者の仮面を剥ぎ取り叩きつぶせ
私たちは願う

100万人を越す無年金者
老齢基礎年金のみ860万人
40年払い続けて満額たった65000円の国民年金

少年に夢を 青年に雇用を 障害者に光を
高齢者に安心を
3000万人の高齢者よ歩もう 99%の国民とともに

大阪(5/30)から東京(6/20)へ 「輝け命の行進」ニュース

2012. 6. 6 行進8日目

No.6

全日本年金者組合近畿ブロック
「輝け命の行進」大阪実行委員会
大阪年金組合内 TEL06-6354-7207

5日、四日市市役所、川越町役場、朝日町役場、桑名市役所を訪問



田代兼二朗・朝日町長と永井団長



4日、鈴鹿市役所で手厚いもてなしを受ける行進団

本当に感激
しました!

どこでも自治体が歓迎と激励



部長先頭に職員50人が出迎え

6月5日 桑名市役所

16:30 桑名市役所に行進団が10数名で到着したとき、すでに玄関前には約20人の職員が出迎え。保健福祉部長が歓迎あいさつされるころには、約50人にふくれあがる。「『税と社会保障の一体改革』などと言いますが、市民からみれば歓迎することはない」と国政に対する批判的なあいさつ。くれぐれも身体に気をつけてください」と。永井団長も返礼のあいさつ。50人規模の出迎えに行進団全員、感動。

6月5日(火) 10:00追分駅出発→12:00四日市市役所
→15:00富田→15:30朝日町役場→17:00桑名市役所

朝日町長が1万円カンパ

今日訪問した自治体(四日市市、川越町、朝日町、桑名市)では、すべて丁寧な対応でした。唯一トップが顔を出してくれた朝日町の田代兼二朗町長は、「国の言う『税と社会保障の一体改革』など

といっても、眉に唾をつけて聞かないかん。後期高齢者医療制度のとき委員だったので反対の意見を表明したら、議論が一時ストップした」など披露しました。首長としても、自治体としてもはじめての募金に感激。

3日間のリレー行進に参加 兵庫・榊上政子さん 歩くことで年金者組合をアピール

楽しみ7分、活動3分の年金者組合。このたびの企画は自分も好きな歩くことで年金者組合をアピールできる。これならできるかもと3日間の参加。一番の不安は現地に到着できるかでしたが無事到着。人生の先輩の方たちとの行進は旧東街道の宿場町を楽しく、雨も降らず、快適な行進日和。地元の年金者組合の人たちにも歓迎され、とても嬉しかったです。鈴鹿市は非核宣言都市。通し行進の方、まだまだ先が長いので、身体に気をつけて東京までGO! GO!

資料

生活支援・まちづくり運動について



「安心して暮らし続けられるまちづくり」について話し合った日本高齢者大会

年金者組合大阪府本部
まちづくり委員会

1. はじめに

「まちからむらからひとりぼっちの高齢者をなくそう」というスローガンは、1987年第1回日本高齢者大会から一貫して掲げられてきましたが、様々な理由でもすればスローガン倒れになってきました。

しかし、高齢者人口の増大、

貧困と格差の拡大、孤立化など高齢者をとりまく情勢が厳しさを増すなかで、高齢者への支援活動は「待ったなし」

の状況となり、民医連や医療福祉生協、NPO法人による配食サービスや地域見回り運動、市町村における高齢者支援施策の強化、また年金者組合支部と他団体との共同の取り組みとして、文化祭・レクレーション、ハイキング・旅行・おしゃべり会とたまり場の確保、高齢者バスの拡充など、地域に根差した新たな運動が少しずつ広がりはじめています。

先の日本高齢者大会・三重大会でも「ひとりぼっちの高齢者をなくす運動」は着実に前進しており、NHKプロデューサー・板垣淑子さんの記念講演「老人漂流社会」とも相まって全国的に関心が高まっています。

こうした情勢を踏まえ、大阪府本部としてもとりくみの具体化を図ることとします。

2. 全日本年金者組合の方針

全日本年金者組合は、2010年から「まちづくり運動」を提起しました。2013・14年度運動方針では次のように位置付け説明しています。

第21回定期大会の意義と任務4項に「地域の住民要求に応える運動を支部活動の基本にすえ、高齢者が安心して暮らせるまちづくり、文化・サークル活動、生活支援・助け合い活動を強化、学習を深め支部の底力をつけ、地域から情勢を変える運動の発展を図ります。」と、まちづくり運動の重要性を位置付け、要求実現の運動の項で生活支援・まちづくり運動の推進について

「①県本部・支部は、地域の高齢者の状況や地域の実態の把握に努め、地域住民・高齢者の要求に応える『まちづくり政策』を作成、支部の活動の基本に据えます。②中央本部・県本部は、『独居マップ』

づくり、街路のバリアフリーや路線バスの運行状況のチェック、福祉バス運行・敬老パス発行要求、共同墓所・葬儀のとりくみ、介護利用負担軽減要求の自治体交渉など、優れた実践の交流・普及にとめます。③支部事務所、地域のたまり場づくりをすすめます。」と述べています。

3. 大阪におけるとりくみ

年金者組合がかかわる大阪における運動は、高槻、茨木、枚方で「豊かな高齢期をつくる〇〇の会」が組織され、年々活動が広がり、他市でもまちづくりに関わって年金者組合の位置と役割も次第に高まっています。また橋下大阪市長による市民生活破壊、公共交通機関の攻撃に反撃する闘いが全市的に広がり、地域ごとの共同組織に発展しているところや、各市政・区政チェックなどの新たな運動もはじまっています。府内各市



日本高齢者大会大阪代表団
(2013・9三重)

でも地域要求にもとづく、対市要求と交渉が行われ、高槻市での「お出かけ応援バス」拡充など成果を勝ち取っています。

これらは貴重な成果ですが、高齢者をとりまく劣悪な状況からすれば多くの課題が山積していると言わねばなりません。

まちづくり運動は、年金者組合員だけの狭い運動でなく、何よりも地域に目を向け、高齢者をはじめ多くの住民の要求や願いを実現する活動です。この運動をすすめてこそ、地域に根を張った高齢者運動を発展させることができるのではないのでしょうか。あらためてこの運動の意義をつかみ、支部としての具体化を図りましょう。

4. 府本部としてのとりくみの具体化

① まちづくり運動について

実態把握と意識調査のアンケート

まちづくり運動をすすめるにあたって大事だと思われることは、第1に今、各地域でどのような取り組みが行われているのか実態を把握すること、第2に、地域の高齢者がまちづくりにかかわってどのような要求を持っているのかをつかむこと、第3に、要求実現に向けて、地域の共同組織の立ち上げなど運動化を図ることが考えられます。

そこで当面、各支部や医療福祉生協やNPOが地域でとりくんでいる実態やまちづくり運動への意識を把握するため、別紙のアンケート調査を行います。

② アンケートを分析しながら、今後の取り組み方針の具体化を図るため、各支部ごとにとりくみ課題の設定と要求の具体化、共同組織の結成、対市要求書の提出、宣伝や署名行動計画などを作成します。

そのため全支部に「まちづくり担当」を置くように要請します。

また、まちづくりの運動をすすめるには、地方自治研活動のように「研究・学習・討論」が不可欠です。そこで府本部のもとに「まちづくり委員会」を設置するとともに、府本部主催の交流会を開催します。

「府本部まちづくり委員会」の構成員（メンバー）は、府本部役員とブロック代表（1名以上）、茨木・高槻・枚方の代表で組織します。

府本部役員は当面、◎長坂村崎、加納、池尾とします。

③ この運動を府内に広げるためには、年金者組合を超えて他団体との共同が不可欠です。新婦人や生健会などいわゆる民主団体はもとより、すべての医療福祉生協や、老人クラブ、高齢者のあらゆる生活支援を行っている非営利団体NPOとの交流などを視野

に入れて運動を取り組みます。

④ 当面、アンケートの実施・分析にもとづく問題意識の共有を図ることを目標にして第18回大阪高齢者集会（11月28日（木）府立労働センター）でアンケート結果を発表できるようにとりくみを図ります。

⑤ この方針について、9月24日の執行委員会でも決定し、10月8日のブロック支部代表者会議で説明し、ブロックからの委員を選出していただくよう要請します。

⑥ その上で、「大阪年金者組合生活支援・まちづくり委員会」の第一回目の会議を10月25日（金）午前10時から、年金者組合会議室で開催することとします。

(2013年9月24日)

中之島宣言

生まれる瞬間から
寄る辺のない赤ちゃんがいる
児童虐待
奪われるいたいけな命
消えた335人もの子ども
3万人を超える自殺者
500人を超える熱中症死
所在不明の高齢者
引き取り手の無い遺骨
ズタズタに引き裂かれた絆
ダブルワーク トリプルワーク
働きまくっても
ワーキングプアー
「恐竜」資本主義はのたうちながら
なお肥え太っていく
「姥捨て山」医療の
介護保険の
年金切り下げのと
とどまるどころがなく
襲いかかる悪政
押し返そう 怒りを力に
一歩 そして次の一歩へ

私たちは要求する
年金下げな 引き上げよ
今こそ最低保障年金制度を
無年金者・低年金者に
国庫負担分3万3千円を支給せよ
看板変えても「姥捨て」医療 廃止せよ
国保料下げろ 命けずる国保広域化反対
いつでもどこでも誰でも必要な介護を
TPP反対 農林漁業守り自給率上げろ
働きたい者に就労の保障を
なくせ 格差・貧困・ワーキングプアー
大企業は巨額の内部留保を吐き出せ
消費税増税は許さん
沖縄から日本から 米軍基地を撤去せよ

2011年2月17日

この怒りとどろけ 後期高齢者怒りの決起集会



怒りの年金者一揆2013宣言

10月1日、年金2.5%切り下げの第一弾が実施されました。同じ日、追いかけるように安倍首相は、来年4月に消費税率8%に引き上げることを決めました。これらの決定は、一片の道理もなく不当極まりないもので絶対許せません。

10年も前の消費税物価指数と比べて年金を払いすぎているから切り下げるなど、適用することでしょうか。今、円安など輸入食品やガソリン代などが値上げされ、介護・国保の保険料や電気・ガスなど生活に欠かせないものの値上げも相次いでいます。年金を切り下げる理由はありません。この年金切り下げのあとには、連続的に年金を削減する「マクロ経済スライド」の発動、年金課税の強化、年金支給年齢の引き上げなどの改悪が検討されています。わたしたちは、この年金切り下げを絶対に認められません。

若者たちの暮らしも大変です。非正規雇用で社会保険にも入れず、毎日の暮らしに追われています。この人たちの老後はどうなるのでしょうか。私たちは全ての世代と連帯し、誰もが安心して老後を迎えることのできる年金制度を築き、手渡すために全力をあげます。

「財政再建」「社会保障」を口実に消費税増税を決めたものの、その実態は、年金切り下げ、医療・介護など社会保障の大改悪であり、大企業へのばらまき施策と減税に6兆円の大盤振る舞いです。憲法改悪、集団的自衛権、秘密保護法、TPP加入促進など、戦争とアメリカ追従を深め、国民の生きる糧を削減するアベノミクスをこれ以上許すことはできません。私たちは、声を大にして叫びます。

年金下げるな

最低保障年金制度をつくれ

原発ゼロ 再稼動許すな

憲法改悪は許さない

私たち年金者組合は、3000万高齢者の切実な思いをにない、全国10万人の不服審査請求運動と「仲間づくり月間」を成功させ、仲間の輪をひろげながら闘うことを、怒りを込めて宣言します。

2013年10月22日

全日本年金者組合大阪府本部

10・22怒りの年金者一揆inおおさか



歴代府本部役員名簿（1989年～2014年）

1992年		1991年		1989・1990年		
小西 康英	茨木	中谷 恒男	大和郡山	中谷 恒男	大和郡山	執行委員長
澤田 慎雄	寝屋川	川崎 常次	旭	川崎 常次	旭	副執行委員長
平岡 豊彬	川西	小西 康英	茨木	小西 康英	茨木	
宮本 和雄	東淀川	澤田 慎雄	寝屋川	澤田 慎雄	寝屋川	
山下 富治	吹田	平岡 豊彬	川西	平岡 豊彬	川西	
稲生 亨	住吉	宮本 和雄	東淀川	宮本 和雄	東淀川	
		山下 富治	吹田	山下 富治	吹田	
若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	書記長
高倉 昌治	大和高田			高倉 昌治	大和高田	書記次長
野村 利之	交野			野村 利之	交野	
新 幹生	茨木					
吉田 菊次郎	高槻			稲生 亨	住吉	執行委員
山本 健一	茨木			上田 徳兵衛	中央	
掛川 遼	豊中			金井 良助	堺	
吉村 浄信	枚方			掛川 遼	豊中	
若津 博一	守口			川村 博	東大阪	
佐々木 芳春	門真			黒島 直哲	八尾	
田中 英一	寝屋川			治部 康利	淀川	
田房 秀康	四条畷			田中 良一	北	
川村 博	東大阪			高田 耕吉	熊取	
黒島 直哲	八尾			西浦 茂	旭	
吉川 英雄	松原			福井 次郎	岸和田	
藤林 光男	藤井寺			藤林 光男	藤井寺	
岸野 安充	阪南			松谷 好一	吹田	
島尾 美一	堺			向 武雄	西淀川	
林 林之助	西淀川			本松 清	大津	
治部 康利	淀川			山田 二男	堺	
西浦 茂	旭			山本 健一	茨木	
真田 武	城東			吉田 菊次郎	高槻	
高田 耕吉	熊取					
田中 良一	北					
上田 徳兵衛	中央					
田中 一雄	浪速					
杉谷 隆志	平野					
橋本 光栄	東住吉					

1995年		1994年		1993年		
若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	小西 康英	茨木	執行委員長
稲生 亨	住吉	澤田 慎雄	寝屋川	澤田 慎雄	寝屋川	副執行委員長
島尾 美一	堺	平岡 豊彬	淀川東淀川	平岡 豊彬	川西	
高岡 正喜	西淀川	宮本 和雄	淀川東淀川	宮本 和雄	東淀川	
平岡 豊彬	淀川東淀川	山下 富治	吹田摂津	山下 富治	吹田	
漁 かね子	浪速	稲生 亨	住吉	稲生 亨	住吉	
		西田 ミチ子	西淀川			
新 幹生	茨木	新 幹生	茨木	若松 秀	東大阪	書記長
伊藤 起好	淀川東淀川	高倉 昌治	大和高田	高倉 昌治	大和高田	書記次長
高倉 昌治	南大阪	吉川 英雄	松原	新 幹生	茨木	
		伊藤 起好	淀川東淀川			
		竹中 良輝	豊能	吉田 菊次郎	高槻	執行委員
		芦川 清治	高槻島本	山本 健一	茨木	
		吉村 浄信	枚方	掛川 遼	豊中	
		若津 博一	守口	吉村 浄信	枚方	
		佐々木 芳春	門真	若津 博一	守口	
		安富 実	寝屋川	佐々木 芳春	門真	
		田房 秀康	四条畷	田中 英一	寝屋川	
		川村 博	東大阪	田房 秀康	四条畷	
		川口 武	八尾柏原	福井 一美	交野	
		藤林 光男	藤井寺	川村 博	東大阪	
		岸野 安充	阪南	黒島 直哲	八尾	
		田井 俊三	堺	吉川 英雄	松原	
		福井 一美	交野	藤林 光男	藤井寺	
		林 林之助	西淀川	岸野 安充	阪南	
		治部 康利	淀川	島尾 美一	堺	
		西浦 茂	都島	林 林之助	西淀川	
		真田 武	城北	治部 康利	淀川	
		武田 和夫	此花	西浦 茂	旭	
		佐谷 史郎	北	真田 武	城東	
		上田 徳兵衛	中央	高田 耕吉	熊取	
		田中 一雄	浪速	佐谷 史郎	北	
		岩本 甚一	平野	上田 徳兵衛	中央	
		橋本 光荣	東住吉	田中 一雄	浪速	
		中原 充雄	住吉	岩本 甚一	平野	
		荻田 稔	生野	橋本 光荣	東住吉	
		長野 一	住之江	荻田 稔	生野	
		山田 重利	西成	山田 二男	堺	
		熱田 操	住吉			
		磯海 瑠美子	枚方			
		早川 誠亮	茨木			

役員名簿

1998年		1997年		1996年		
若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	執行委員長
稲生 亨	住吉	稲生 亨	住吉	稲生 亨	住吉	副執行委員長
漁 かね子	浪速	漁 かね子	浪速	島尾 美一	堺	
吉川 英雄	松原	吉川 英雄	松原	高岡 正喜	西淀川	
高岡 正喜	西淀川	高岡 正喜	西淀川	平岡 豊彬	淀川東淀川	
				漁 かね子	浪速	
新 幹生	茨木	新 幹生	茨木	新 幹生	茨木	書記長
伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	高倉 昌治	南大阪	書記次長
				吉川 英雄	松原	
				伊藤 起好	淀川東淀川	
岩本 甚一	平野	岩本 甚一	平野			執行委員
富永 寿	河南	上田 トミエ	城東			
川口 武	八尾柏原	川口 武	八尾柏原			
上田 トミエ	城東	岸野 安充	阪南			
大丸 力	堺	佐谷 史郎	北			
岸野 安充	阪南	関 勝久	池田			
窪田 勇夫	河南	高田 耕吉	此花			
佐谷 史郎	北	高山 アサ子	堺			
関 勝久	池田	富永 寿	河南			
高田 耕吉	此花	福浦 恒夫				
久末 道子		吉村 浄信	枚方			
福浦 恒夫		若津 博一	守口			
安田 正人						
吉村 浄信	枚方					
若津 静江	守口					
若津 博一	守口					
安富 実						

2001年		2000年		1999年		
富永 寿	河南	若松 秀	東大阪	若松 秀	東大阪	執行委員長
漁 かね子	浪速	漁 かね子	浪速	漁 かね子	浪速	副執行委員長
吉村 浄信	枚方	富永 寿	河南	吉川 英雄	松原	
川口 武	八尾柏原	吉村 浄信	枚方	富永 寿	河南	
穴井 重徳	堺			吉村 浄信	枚方	
松井 幹治	岸和田	稲生 亨	住吉	稲生 亨	住吉	書記長
伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	書記次長
中矢 道一	吹田	松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	
若津 博一	守口	芦川 清治	高槻島本	関 勝久	豊能	執行委員
上田 トミエ	城東	中矢 道一	吹田	芦川 清治	高槻島本	
高山 アサ子	堺	安富 実	寝屋川	安富 実	寝屋川	
船井 喜美代	都島	若津 博一	守口	若津 博一	守口	
垣内 健	住之江	川口 武	八尾柏原	川口 武	八尾柏原	
桐村 弘	高槻島本	窪田 勇夫	河南	窪田 勇夫	河南	
窪田 勇夫	河南	辻 宣利	堺	服部 博	堺	
小島 勝	東大阪	佐谷 史郎	北	佐谷 史郎	北	
坂口 玉之助	羽曳野	高田 耕吉	此花	林 林之助	西淀川	
佐谷 史郎	北	岩本 甚一	平野	岩本 甚一	平野	
杉澤 留吉	枚方	上田 トミエ	城東	垣内 健	住之江	
高田 耕吉	此花	高山 アサ子	堺	上田 トミエ	城東	
辻 宣利	堺	船井 喜美代	都島	高山 アサ子	堺	
小川 和治	和泉	垣内 健	住之江	久末 道子	枚方	
				高田 耕吉	此花	



大阪府庁記者クラブで会見する永井委員長（右から2人目）、加納書記長（その左）ら府本部三役

高齢者の悲鳴が聞こえるか！ 年金の2・5%引き下げに怒り

歴史的な行政不服審査請求運動
全国12万6千、大阪1万228人提出

2・5%年金削減異議あり！
行政不服審査請求運動の中間総括

全日本年金者組合
大阪府本部

1. 総論

2・5%年金削減に行政不服審査請求運動で闘おう、全国で10万人の不服審査請求を！と決定したのは、2012年12月の第29回中央委員会でした。

全国一斉提出日の2014年1月31日、全国で12万4217人、大阪府本部で1万174人、最終提出の2月6日には、全国12万6千人、大阪1万228人に達しました。まさに日本の社会保障運動史に刻まれる歴史的な大運動となりました。

昨年12月10日前後、日本年金機構から減額の改定通知書が届いて事実上の不服審査請求の書き込みがスタート。

役員名簿

2004年		2003年		2002年		
小川 和治	和泉	富永 寿	河南	富永 寿	河南	執行委員長
伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	副執行委員長
高田 耕吉	此花	高田 耕吉	此花	川口 武	八尾柏原	
高山 アサ子	堺	高山 アサ子	堺	高山 アサ子	堺	
杉澤 留吉	枚方	小川 和治	和泉	小川 和治	和泉	
松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	
垣内 健	住之江	垣内 健	住之江	垣内 健	住之江	書記長
中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	書記次長
米田 健治	守口	杉澤 留吉	枚方	杉澤 留吉	枚方	執行委員
上田 トミエ	城東	上田 トミエ	城東	上田 トミエ	城東	
佐々木 能夫	河内長野	佐々木 能夫	河内長野	川田 五郎	堺	
尾添 晴子	茨木	荒木 章	住吉	桐村 弘	高槻島本	
窪田 勇夫	河南	桐村 弘	高槻島本	窪田 勇夫	河南	
小島 勝	東大阪	窪田 勇夫	河南	小島 勝	東大阪	
田岡 良勝	門真	小島 勝	東大阪	坂口 玉之助	羽曳野	
高橋 宏	堺	坂口 玉之助	羽曳野	佐々木 能夫	河内長野	
中川 五十次	岸和田	立石 泰雄	住吉	高田 耕吉	此花	
久末 道子	枚方	高橋 宏	堺	辻 宣利	堺	
廣田 三希子	吹田	辻 宣利	堺	東新 栄助	住吉	
船井 喜美代	都島	久末 道子	枚方	久末 道子	枚方	
宮沢 武夫	藤井寺	廣田 三希子	吹田	廣田 三希子	吹田	
元橋 明司	羽曳野	船井 喜美代	都島	船井 喜美代	都島	
桑原 稔	住吉	宮沢 武夫	藤井寺	宮沢 武夫	藤井寺	
		米田 健治	守口			



トしたといっているでしょう。提出日1月31日までわずか一月半余り、氏名、住所、電話番号、生年月日、基礎年金番号の記入さらに押印と、労力と手間、気遣いと信頼関係が欠かせない大変な作業です。

年金受給者の年金削減への悲鳴に近い訴え、怒りを、目標1万人達成で示さねば、との府本部、支部役員、組合員の熱い思いが、1万人を達成させました。

12月の支部代表者会議で、平野支部、阿倍野支部、西

成支部などが「必ず組合員数100%達成できる、達成する」と、運動への確信を発言し、励ましていただきました。

1月9日現在で3236人、阪南支部、岸和田支部、泉大津忠岡支部、富田林支部など次々と100%できる！との報告が入りました。

19日、6168人。連日連夜、集めてこられる支部役員、組合員の誠実な思いがひしひしと伝わってきました。

毎日報告で、本部、各支部相互にリアルに運動の進展がわかり、励ましあえたことは大きな効果を発揮したと思います。本部に届けられた審査請求書のごく一部を紹介します。

「少ない年金から介護保険料を引かれ、手元に来るのはわずかな金額ですが、何とかやりくりしています。これ以上下げられると他府

2007年		2006年		2005年		
小川 和治	和泉	小川 和治	和泉	小川 和治	和泉	執行委員長
伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	伊藤 起好	淀川東淀川	副執行委員長
垣内 健	住之江	高田 耕吉	此花	高田 耕吉	此花	
高山 アサ子	堺	高山 アサ子	堺	高山 アサ子	堺	
杉澤 留吉	枚方	杉澤 留吉	枚方	杉澤 留吉	枚方	
松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	書記長
米田 健治	守口	垣内 健	住之江	垣内 健	住之江	書記次長
中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	
坂口 延宏	住吉	坂口 延宏	住吉	佐々木 能夫	河内長野	
中川 五十次	岸和田	中川 五十次	岸和田	上田 トミエ	城東	執行委員
船井 喜美代	都島	船井 喜美代	都島	田岡 良勝	門真	
尾添 晴子	茨木	荒木 八重子	住吉	尾添 晴子	茨木	
永井 守彦	八尾柏原	上田 トミエ	城東	大西 国富	熊取	
荒木 八重子	住吉	尾添 晴子	茨木	窪田 勇夫	河南	
上田 トミエ	城東	大西 国富	熊取	桑原 稔	住吉	
大西 国富	熊取	窪田 勇夫	河南	小島 勝	東大阪	
大曲 啓三	門真	藤浦 義一	羽曳野	坂口 延宏	住吉	
加納 忠	高槻島本	小島 勝	東大阪	高橋 宏	堺	
窪田 勇夫	河南	米田 健治	守口	中川 五十次	岸和田	
藤浦 義一	羽曳野	高橋 宏	堺	久末 道子	枚方	
小島 勝	東大阪	宮沢 武夫	藤井寺	船井 喜美代	都島	
高橋 宏	堺	久末 道子	枚方	宮沢 武夫	藤井寺	
辻本 浩二	藤井寺	佐伯 洋一	住吉	元橋 明司	羽曳野	
中居 多津子	城東					
佐伯 洋一	住吉					



県の施設でお世話になって
いる重度障害者の息子に、
旅費の工面ができず、見舞
いにも行けなくなっていま
います。息子との面会は私
の生きる支えです。どうか
これ以上年金を下げるのは
止めてください」
人間らしく生きたいとい
う願いを踏みにじるものへ
の抵抗の思いに胸を打たれ
ます。あらためて、私たち
のこの運動の正当性、必要
性をきわめて具体的、直截
に示すものです。

私たちは、署名・街頭宣
伝活動や学習会を重ね、多

くの年金受給者、市民と対
話するなかで、この不服審
査請求運動の意味をより深
く理解することができまし
た。

この運動は、圧倒的多数
の高齢者、年金受給者の思
いと重なるものであり、多
くの年金受給者に待たれて
いた運動であったと言える
でしょう。同時に、私たち
は「年金削減は若者の未来
を奪うもの」と、現役世代、
若者との連帯を訴えました
が、不十分であったことも
否めません。今後さらに深
く追求すべき運動の大きな
課題です。

不服審査請求運動は、分
断と孤立を乗り越え、あき
らめることなく声をあげ、
人間らしく生きるために連
帯して闘うことの大切さを、
広く社会に発信できたので
はないでしょうか。

この運動の経験から、運
動の広がりにはやはり、でき

役員名簿

2010年		2009年		2008年		
松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	執行委員長
窪田 勇夫	河南	窪田 勇夫	河南	窪田 勇夫	河南	副執行委員長
米田 健治	守口	垣内 健	住之江	垣内 健	住之江	
坂口 延宏	住吉	坂口 延宏	住吉	坂口 延宏	住吉	
杉澤 留吉	枚方	杉澤 留吉	枚方	杉澤 留吉	枚方	
橋本 広子	枚方	橋本 広子	枚方			
永井 守彦	八尾柏原	永井 守彦	八尾柏原	永井 守彦	八尾柏原	書記長
中矢 道一	吹田	米田 健治	守口	米田 健治	守口	書記次長
加納 忠	高槻島本	中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	
伊藤 一正	東住吉	加納 忠	高槻島本	加納 忠	高槻島本	
大内 康夫	松原	伊藤 一正	東住吉	橋本 広子	枚方	執行委員
大西 国富	熊取	上田 トミエ	城東	船井 喜美代	都島	
尾添 晴子	茨木	大内 康夫	松原	尾添 晴子	茨木	
鎌田 修	羽曳野	大西 国富	熊取	高山 アサ子	堺	
河野 克昭	北	尾添 晴子	茨木	上田 トミエ	城東	
小林 泰啓	西淀川	高橋 宏	堺北	大内 康夫	松原	
高橋 宏	堺北	高山 アサ子	堺北	大西 国富	熊取	
高山 アサ子	堺北	辻本 浩二	藤井寺	小島 勝	東大阪	
辻本 浩二	藤井寺	中川 五十次	岸和田	佐々木 能夫	池田	
橋本 邦久	東大阪	橋本 邦久	東大阪	中川 五十次	岸和田	
船井 喜美代	都島	藤浦 義一	羽曳野	広上 珠江	東住吉	
藤田 拡	箕面	船井 喜美代	都島	廣田 三希子	吹田	
村崎 秀子	住之江	藤田 拡	箕面	藤浦 義一	羽曳野	
湯浅 節子	住吉	村崎 秀子	住之江	大治 重信	住吉	
結城 恵子	平野			辻本 浩二	藤井寺	
				高橋 宏	堺	



る限り多くの役員、組合員が運動の意義を納得できる学習、議論を重ね、役割、行動を分担して、組織的に、みんなの運動にしていくことの大切さ、同時に役員の新創意ある頑張りがいかに重要な役割を果たすかということも改めて学ぶことができました。

この運動は、深刻な格差と貧困を拡大し、人権抑圧の社会を生み出す安倍内閣の暴走政治にストップをかける民衆運動としての先駆的役割を果たすものです。わずか1月半で12万人が

呼び掛けに応じ、しかもその20数%から30数%の方が非組合員であると思われる。だが、もし高齢者の2%が年金者組合員であったならば、数十万人の審査請求を組織することができるでしょう。

この不服審査請求運動の実践の中から、年金者組合高年齢者比1%達成が急がれ、さらに2%以上の組織にしていくことの必要性と可能性を確信することができました。

年金者組合の拡大、運動の深まりとともに、地域の「まちづくり」も大きく前進する可能性が開かれるでしょう。

この運動をこれからどう発展させるか、高齢者の意識を変え、次に続く世代、若者の世代と連帯した運動につながっていくけば、かならず地域を変え、社会を変えることができるでしょう。

2014年2月13日

2013年		2012年		2011年		
永井 守彦	八尾柏原	松井 幹治	岸和田	松井 幹治	岸和田	執行委員長
松井 幹治	岸和田	藤田 拡	箕面	坂口 延宏	住吉	副執行委員長
米田 健治	守口	米田 健治	守口	米田 健治	守口	
橋本 広子	枚方	橋本 広子	枚方	橋本 広子	枚方	
村崎 秀子	住之江	村崎 秀子	住之江	村崎 秀子	住之江	
中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	中矢 道一	吹田	
加納 忠	高槻島本	永井 守彦	八尾柏原	永井 守彦	八尾柏原	書記長
鎌田 修	羽曳野	鎌田 修	羽曳野	鎌田 修	羽曳野	会計長
長坂 民雄	堺南	加納 忠	高槻島本	加納 忠	高槻島本	書記次長
伊藤 一正	東住吉	河野 克昭	北	河野 克昭	北	
大内 康夫	松原	伊藤 一正	東住吉	伊藤 一正	東住吉	
尾添 晴子	茨木	尾添 晴子	茨木	尾添 晴子	茨木	執行委員
池尾 剛	堺北	田畑 正子	東住吉	藤田 拡	箕面	
一塚 正紘	堺北	今枝 稔	枚方	船井 喜美代	都島	
今枝 稔	枚方	橋本 邦久	東大阪	田畑 正子	東住吉	
小林 泰啓	西淀川	大内 康夫	松原	今枝 稔	枚方	
辻本 浩二	藤井寺	小林 泰啓	西淀川	橋本 邦久	東大阪	
東新 栄助	住吉	高橋 宏	堺北	大内 康夫	松原	
大西 国富	阪南	長坂 民雄	堺南	小林 泰啓	西淀川	
梅本 千代子	東成	辻本 浩二	藤井寺	高橋 宏	堺北	
山口 佐和子	高槻島本	結城 恵子	平野	生田 淳子	寝屋川	
三崎 英規	交野	東新 栄助	住吉	辻本 浩二	藤井寺	
河野 克昭	北	大西 国富	阪南	結城 恵子	平野	
半埜 明代	交野	梅本 千代子	東成	湯浅 節子	住吉	
勝井 正	富田林	川口 喜三子	羽曳野	大西 国富	阪南	
田畑 正子	東住吉	山口 佐和子	高槻島本	梅本 千代子	東成	
西岡 健二	東大阪	三崎 英規	交野			
結城 恵子	平野					



10147人分の不服審査請求書を提出する永井委員長（右）

審査請求の理由

●年金だけで生活しています。退職して9年です。退職金も貯えも、すでになくなりまして。夫は要支援2です。夫の介護と母が施設に入居していますので、2人を見るのは本当に大変でお金もかかります。

子どもたちの世話にはなれないと思っていました。が、とうとう援助を受けるしか方法はありません。長生きすることは罪なのではないでしょうか。老人は早く死ねと言われているとしか思えません。

●現在、月額13万3700円の年金支給です。妻の分と合わせても暮らしていません。住民税非課税です。

●私は97歳の母の介護、パートと頑張っていますが、自身の体がだんだんと悪くなり困っています。これ以上年金を下げられたら暮らしてはいけません。どうぞよろしく願います。

●食料品や日用品、光熱費、水道代と生活必需品は上がっています。一人暮らしの高齢者の女です。今でさえ、いっぱいいっぱい生活です。年金下げないでください。

（吹田市・R子・68）
（吹田市・T子・70）
（大阪市・A・67）
（藤井寺市・E子・71）

編 集 後 記

大阪府本部結成25年を前にして、組合員1万人をめざし、25周年を祝う一環として、記念誌を発行することになり、本部・支部から記念誌編集委員が選出されました。

結成20年の節目の年には20年の歩みとして、記念誌『軌跡』が発行されています。この20年を受けて「5年誌」を編集するため、編集委員は何度となく6階の会議室で大会議案、支部代表者会議の議案、府本部ニュースや資料を読み返し、検討しました。

府本部活動の先達として、若松さん、漁さん、松井副委員長が座談会の中で25年の流れを簡潔に、明解に語っていただいたことで、25年の通史としての役割をしていただきました。

この5年間には、年金生活を壊す政治が、国政でも自治体でも強まってきています。それにつれて、年金者組合の活動が求められ、その取り組みも大きくなってきており、組合員の皆さんも活動に追われてきています。

「命の行進」「年金者一揆」「行政不服審査請求」「ひとりぼっちの高齢者をなくすまちづくり運動」などの諸活動で、大いに力量を発揮してきたことを組合員の皆さんに伝えることができれば、この記念誌が30年の活動へのスタートに立つ役割を果たせるのではと受け止めています。

【記念誌編集委員】

荒木八重子・加納忠・鎌田修
正富輝弥・村岡文蔵・村崎秀子



**全日本年金者組合大阪府本部
結成25周年記念・5年誌**

発行日 2014年3月25日

編集人 「年金者組合大阪府本部記念誌」編集委員会

発行 全日本年金者組合大阪府本部

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15 グリーン会館6階
TEL06-6354-7207 FAX06-6354-7746
Eメール o-nenkin@diamond.bforth.com